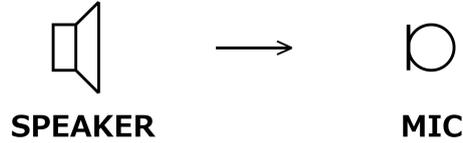


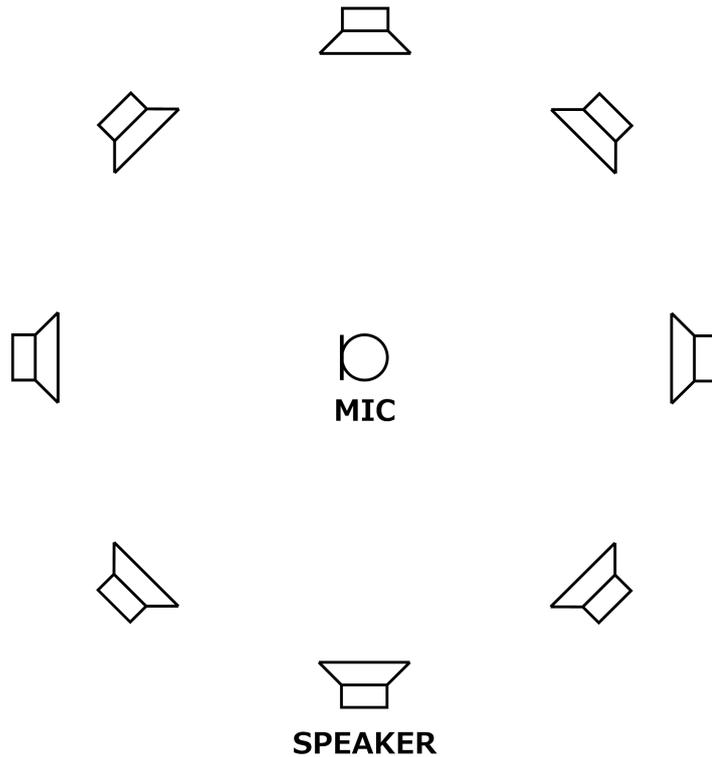
■音場制御としてのハウリング・キャンセラ

当社では下図のようにスピーカーの正面にマイクを設置した厳しい条件でハウリング・キャンセラの実験をおこなっています。この状態でスピーカーとマイクの間を人が横切ってもハウリングは発生しません。普通の部屋では残響（壁からの反射音）があるからです。（残響の無い無響室で実験すると、人がスピーカーの正面に入ったときに一時的にハウリングが発生します）
見方を変えると、ハウリング・キャンセラは残響のある部屋で一種の音場制御をしていることとなります。



マイクは無指向性（全指向性、音場型）

では、スピーカーを複数用いてマイクを取り囲むような配置でハウリング・キャンセラの実験をしてみるとどうなるでしょうか？ スピーカーに囲まれた領域内のどこでも、人が話すと自分の声が大きくなって聞こえる不思議な音響空間を実現できるはずです。別の表現をするなら、吸音率がマイナスの（音を増幅する）壁に囲まれた仮想空間になるはずです。スピーカーが複数あるので、普通の拡声システムのような明確な音源定位は得られません。今後、実際に実験をおこなってみる予定です。



マイクは無指向性（全指向性、音場型）